



Trueflow SE
EQUIOS
Pre4m

User Report

株式会社 精興社

さらなる可能性を求めて、 新しいワークフローの構築に挑戦

精興社は1913(大正2)年、東京活版所として東京・神田に創業した。文字組版と書籍印刷では定評があり、岩波書店や福音館書店など名だたる老舗出版各社からの仕事が、売り上げの半分以上を占める。その強みは、長い歴史の中で培ったモノづくりの伝統を維持していることに加えて、常に新しい印刷技術と手法、機器・システムを取り入れ、高付加価値を追求し続けていることだ。2010年6月からは、Trueflow SE Ver.7.1とEQUIOS-Pre4mの運用を開始。さらなる顧客満足度の向上を追求する。



制作部 生産システム担当
副部長 小野 克之氏



印刷部 副部長
中村 博幸氏



制作部 製版グループ
副課長 矢作 哲也氏



印刷部 製版グループ
浅見 正史氏

生産現場に最適な設備を厳選

精興社は青梅工場(本社)、朝霞工場(埼玉県)と、営業部門や制作部門を持つ神田事業所の3拠点体制で成長してきた。各事業所間を光ネットワークで結び、印刷に必要な在版データやデジタルコンテンツを総合的に管理している。

精興社の事業内容はデザインから印刷まで多岐にわたるが、2本柱になっているのは青梅工場の書籍と朝霞工場の児童書。青梅工場での仕事は出版系の文字組版が圧倒的に多く、単行本や文庫本、新書などの新刊だけで月間60~70点、全体では200点にも達する。一方、朝霞工場は児童書を中心にポストカード、チラシ類などのカラーオフセット印刷を行う専門工場で、最新の5色印刷機やインキ調

色機を導入しているほか、デザイン系の仕事も担当する。

同社では、青梅工場か神田事業所で作り込んだ完成データを朝霞工場に送り、出力する形態を取っている。出力用のデータの受け渡しは、すべてOutlinePDFで行われている。ただし、後加工は別会社が行うため、面付けは各出版社の指示どおりに行わなければならない。そんな制約があるのも同社の特徴だ。

制作部門の責任者であり、かつ機器・システムの仕入れを全面的に任されている小野副部長は、「当社は出版系の仕事の中でも特殊案件が多いので、設備に関しては仕事内容に最もマッチしたものだけを選定、導入するようにしています。面付け処理のための設備も、当社の面付けパターンに対応できるかどうかを最大の判

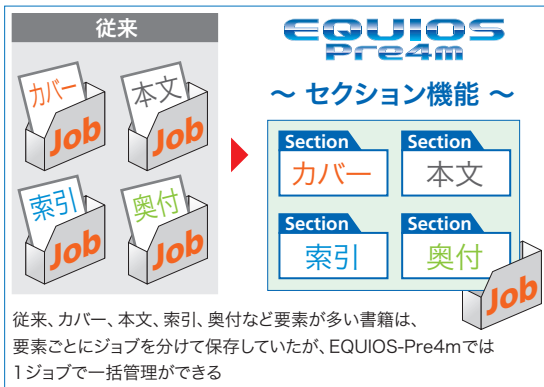
断基準になっています」と言う。

期待を込めて運用を開始

精興社では、面付け仕様の修正や変更が発生した場合も柔軟に対応できること、他メーカーの製品と比べるとビジュアル(GUI)が最も見やすかったことなどを評価して、EQUIOS-Pre4mの導入に踏み切った。

「実際に使ってみて一番良かったのは、逆丁合が自動でできることです。当社の場合は出版点数が多く、逆丁合のものも結構ありますので、こうした機能は有益でした。それと、同一ジョブに複数の台割りテンプレートが入れられるのもありがたい」(制作部・小野副部長)。

Trueflow SEから改善されたジョブテンプレート、ジョブのセクション構造、項目



別ソート機能なども効果がありそうだと評価する。

製版・印刷部門の責任者、中村副部長は「当然のことながら、われわれは出版社にご満足いただける面付けをしなければなりません。書籍を扱う当社にとって、セクション機能は非常に魅力的です。これまで、カバー、本文、索引、奥付といったパートごとに用紙や面付けが異なる場合、Trueflowのジョブを分けて管理するしかありませんでした。データ管理や作業の上でのミスが減り、運用効率が向上すると思います」と立ち上げ初期の感想を語る。

新たな可能性にチャレンジ

精興社が得意とする書籍では、原稿が複数に分割された状態での入稿がほとんどで、また、ページ単位での差し替え指示も頻繁に発生するため、Trueflowのジョブ運用を中心としたフローを構築してきた。書籍類は100%ジョブ運用。EQUIOS-Pre4mは、さらなる効率化を目指して導入したもので、操作に一日も早く慣れようと、同社ではいくつかのパターンに分けて試験的な活用を開始した。

試行錯誤の末に確立したジョブ運用を3年半近く行ってきた当社にとって、EQUIOS-Pre4mの活用は「ある意味挑戦でした」と、製版グループの現場を率いる制作部・製版グループの矢作副課長は言う。

「当社では、ジョブを使つての運用がようやくフローとして定着し、誰が作業してもミスや事故なく仕事を進められるようになってきたところです。面付けが簡単に

き、しかも入力処理、出力まで一貫して行えるEQUIOS-Pre4mは確かに魅力的なツールではありますが。ただ、FlatWorkerで作業を行うことに慣れていくわれわれにすれば、正直、戸惑いがあったことも事実です」(矢作副課長)。

EQUIOS-Pre4mは、製版の経験が乏しくても、機械操作さえ覚えれば短期間で使えるのが特長。ところが、多ページ物の仕事が多く、多ページ面付けや変形した面付けが必要な仕事が多い当社にとって、まだ不足する機能があるという。

EQUIOS-Pre4mのオペレーションに当たっている印刷部・製版グループの浅見氏は、「われわれは、製版知識を十分身に付けた上でFlatWorkerを使ってきました。EQUIOS-Pre4mにより、オペレーションが簡単になることは、非常に素晴らしいことです。それと同時に、オペレーターの製版知識の向上に努めることで、ミスやロスを削減し、これまで以上の品質をご提供できるかが、われわれにとっての当面の課題です」と指摘する。

そのほか、①96種類もあるパターンファイルのすべてがテンプレートとして利用できるようになること、②1つの操作画面ですべての作業ができれば、効果がさらに上がること、③新規ジョブ登録がスムーズに行え、過去のジョブ管理が容易になること、などの要望が挙げられた。矢作副課長と浅見氏は「これらがきちんと整備されれば、ジョブ運用のスピードに匹敵するか、あるいはもっと早くできるようになるかもしれない。新台のとき(新しく面付けを作らなければならないとき)は、より高い効果が出るのではないかと、これからの可能性を感じています」と言う。

互換性の向上に期待

小野副部長は「もともとTrueflowを導入するとき、トラブルの発生を避けるために精鋭の若手オペレーターを抜擢しました。彼らは確実に実績をつくってくれていくし、トラブルもほとんどなくなりました。

将来的には、また若い世代の人たちにオペレーションを任せることになりますが、そのときは今までよりも立ち上げが容易になるのは確かです」と、EQUIOS-Pre4mに期待を寄せる。

一方、出版社が指定する特殊な面付けへの対応が必要な当社にとって、課題は残る。①本の途中でページの進行順が逆転する本文逆丁合、②文庫本制作に多い巻き折り2丁面付け、これらの2点が改善されると効果は格段に高まりそうだ。

中村副部長は「あえて言えば、互換性を高めて、今までFlatWorkerで使っていたものをスムーズに使えるようにしていただくと、既存の仕事をどんどんEQUIOS-Pre4mに移行することも可能です」と言い切る。

同社は2013年4月に創業100周年を迎える。現在は、まだMISによる工程の統合管理はできていないが、3年以内には最低限、受注情報からCTP出力まではMISと連携できるようにしたいという。

伝統の技と最先端の機器・システムを高い次元で融合させる精興社は、さらなる可能性に向かってたくましくチャレンジする。



本社・青梅工場に設置されたCTPシステムや印刷機



株式会社 精興社

住所 東京都青梅市根ヶ布1-385
代表者 代表取締役社長 青木 宏至
創業 1913年
従業員数 220人

SCREEN

株式会社メディアテクノロジー ジャパン

〒102-0074 東京都千代田区九段南2-3-14 靖国九段南ビル <http://www.mtjn.co.jp/>

東京支店/03(3237)3111(代) 大阪支店/06(6268)6600(代) 名古屋支店/052(218)6400(代)
福岡支店/092(436)7081(代) 北海道営業所/011(726)0707(代) 東北営業所/022(224)1741(代)
新潟営業所/025(241)0112(代) 静岡営業所/054(281)0955(代) 長野営業所/026(224)5770(代)
金沢営業所/076(292)2345(代) 京都営業所/075(326)1350(代) 中国営業所/082(264)6451(代)
四国営業所/087(837)8151(代)

大日本スクリーン製造株式会社

メディア&プレジジョンテクノロジーカンパニー
〒602-8585 京都市上京区堀川通寺之内上る4丁目
<http://www.screen.co.jp/>

※本カタログは、弊社のFairdot 2で印刷しています。
※本カタログは、弊社の千部フォントを使用しています。
※本カタログの各商品名は各社の商標・登録商標です。
※本カタログに掲載している商品は、日本国内仕様です。